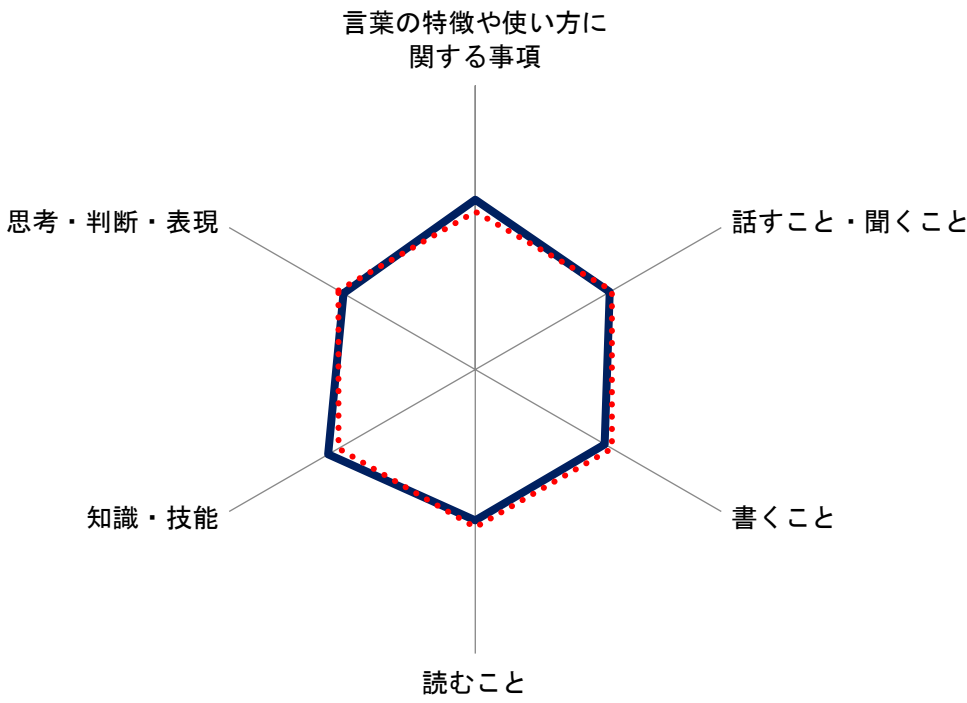


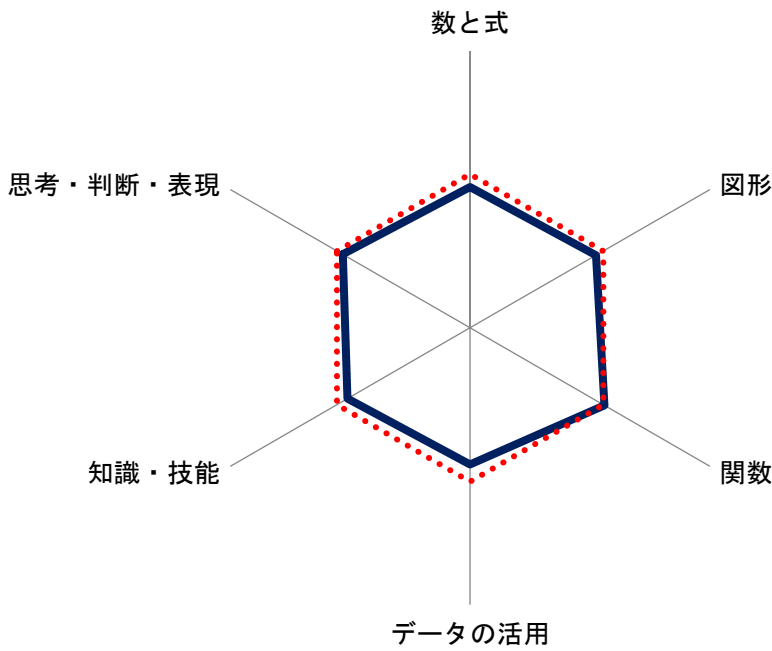
○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)

【国語】

— 市平均
..... 全国平均



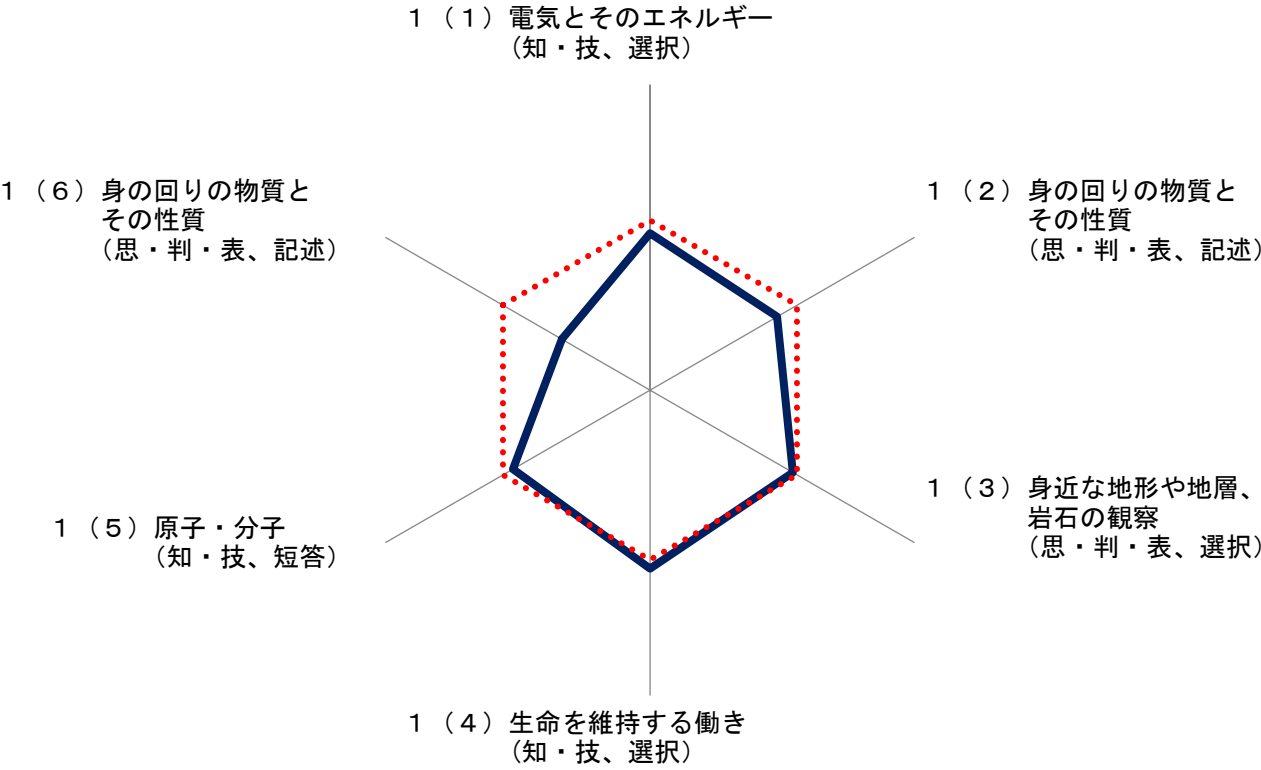
【数学】



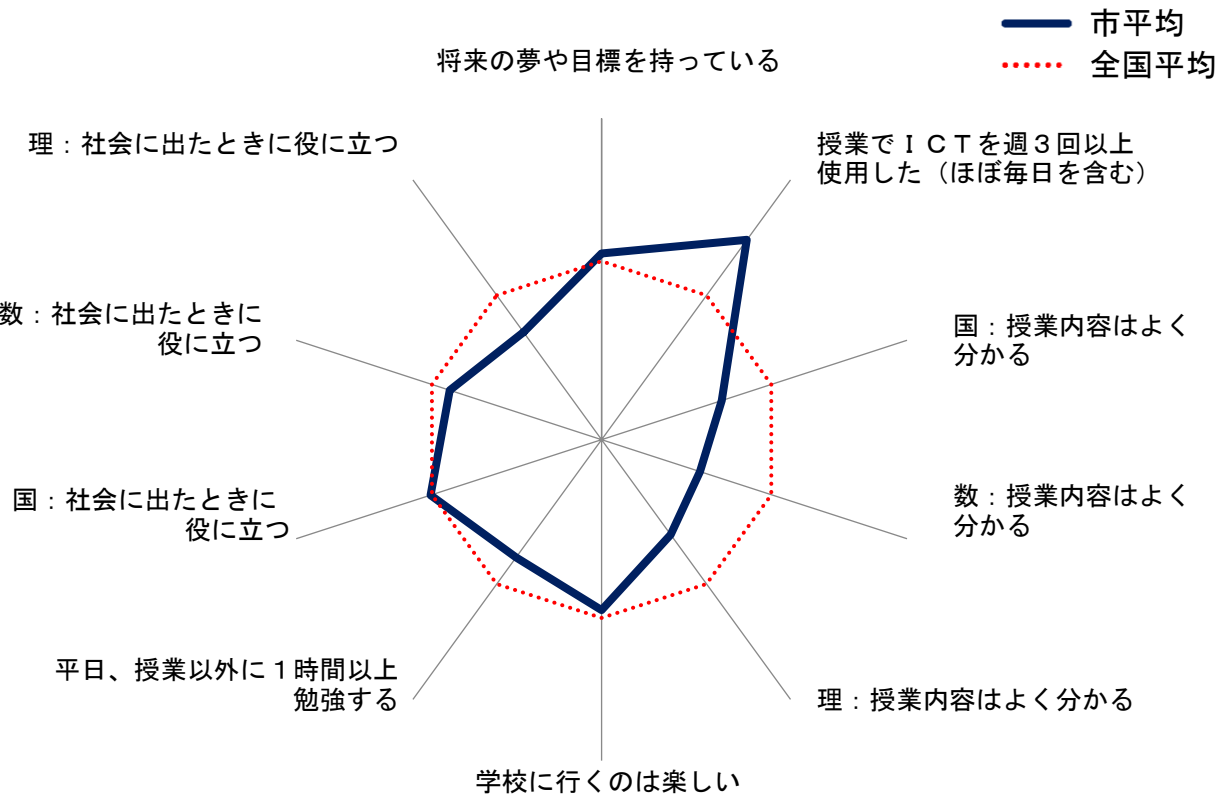
○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)
【理科】

※全ての生徒が解答した共通公開問題(6問)について、問題ごとに
全国の平均正答率と県や市町の平均正答率との差を比較したもの

— 市平均
..... 全国平均



○ 生徒質問調査 (全国の平均回答率との差：肯定的な回答)



○ 結果の分析と改善策

教科に関する調査では、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「知識・技能」の項目は全国平均を上回っており、昨年度から改善が見られるものの、国語の半数、数学のほとんどの項目と理科の公開問題の多くは、全国平均をやや下回っている。特に、理科の 1 (6) の問題は、全国平均を大きく下回っており、学習の振り返りにおいて新たな問題や身近な生活との関連について整理し表現することに課題が見られる。今後は、市が取り組んでいる I C T の効果的な活用による個別最適な学びや協働的な学びの充実を図るとともに、効果的な活用事例の共有を継続することで、知識及び技能の習得と、それを基盤とした思考力、判断力、表現力等の育成を一体的に捉えた学力の育成に資する取組を一層推進していくことが望まれる。

生徒質問調査では、「授業で I C T を週 3 回以上使用した」の項目が全国平均を大きく上回っており、I C T を効果的に活用した授業を推進してきた成果がうかがえる。一方、各教科の「授業内容はよく分かる」、理科の「社会に出たときに役に立つ」の項目は、全国平均を大きく下回っており、課題である。今後は、学力向上推進主任連絡協議会等で共有した各校の取組を生かしながら、生徒にとって「分かる」「できる」を実感できる授業をより一層推進することが望まれる。